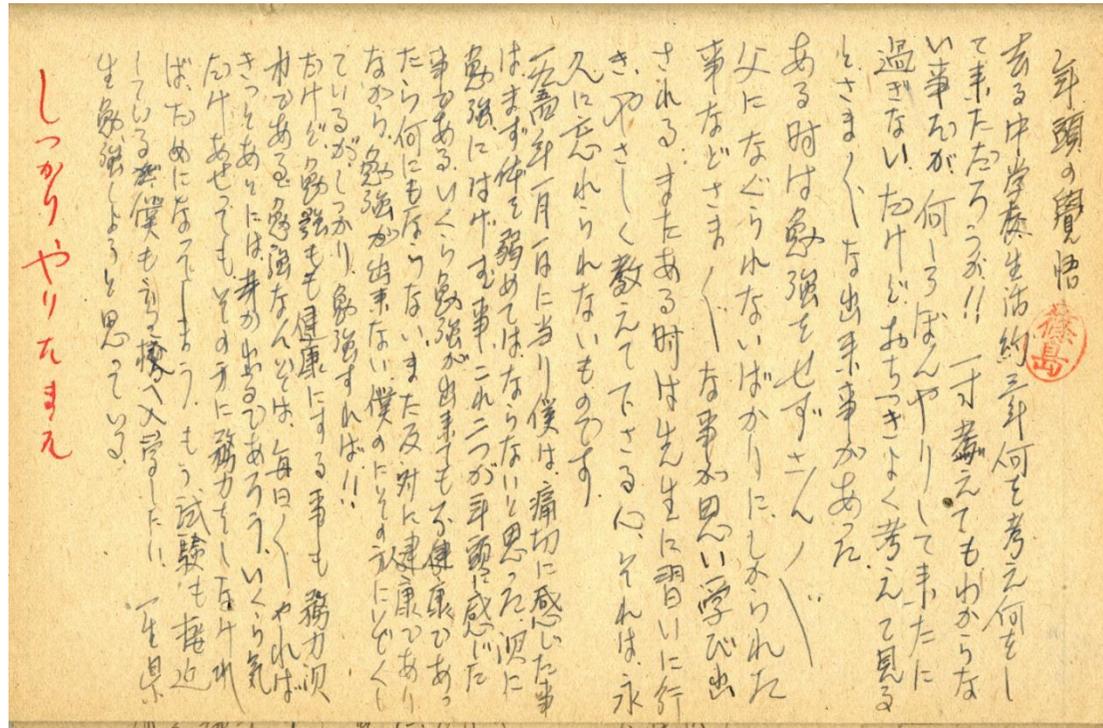


Diary note (戦後の中学生日記)



1951年(昭和26)～1954年 「Diary note」
(下庄中学生、映画感想、福井復興、博覧会等)

野尻喜平治家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

解説

1947年3月、新しい教育理念を掲げる**教育基本法**が公布されました。同法において無償の義務教育を6年から9年に延長することが定められ、同時に制定された学校教育法に基づき、「6・3・3・4」の新学制が47年4月に発足しました。また多様なタイプの学校(女学校・師範学校・各種専門学校)に担われてきた従来の「複線型」の中・高等教育が高校3年・大学4年の「単線型」に一本化されました。大学は大幅に増設され、大衆化が進みました。また男女共学の原則から、現在は全ての大学が女子に対して門戸を開いています。48年7月に教育委員会法が成立し、教育行政の地方分権化が進展しました。

福井とのかかわり

福井では、1948年(昭和23)4月をもって県立高校12校が発足しています。これとあわせ、県は同月、勝山精華高校、仁愛学園女子高校、北陸高校を認可しました。市立については福井市立商業学校と福井市立高等女学校が併合し、市立福井高校として発足しています。新制高校発足とともに男女共学が実施されています。しかし、当初の実態となると男女別の学級編成が行われたり、生徒間の違和感が拭えなかったりと期待された完全な共学とは言いがたい点もありました。新制高校発足時点で男女共学を実施できたのは、滋賀・福井・和歌山・大阪・宮崎の府県にとどまっています。

資料の注目ポイント

資料は下庄中学校(大野市)の生徒が1年生から3年生までに書いた日記の一節です。戦後の子どもたちをとりまく社会情勢などがわかり、興味深いものがあります。3年次の新年の頁には「高校に入学したいから勉強をがんばりたい」という熱い思いが綴られています。これに対して、教員からは端的なコメントが添えられています。

関連資料

名称	概要	備考
「Diary note」（下庄中学生、映画感想、福井復興、博覧会等）	野尻喜平治家文書（当館蔵） I0076-01173	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-439111-1-p1
福井県文書館月替展示 「つづられた希望ー少年たちの戦中・戦後ー」	戦中、戦後に少年たちがつづった日記や文集、身の周りの教科書や遊び道具・写真などを展示	当館 WEB にて公開中 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/20151112AM/20151112.html

参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『福井県史』 通史編6 近現代二 第三章 占領と戦後改革 第四節 戦後教育改革 一 六・三・三・四制教育の実施
- ・『図説福井県史』 現代1 占領と戦後改革
- ・『日本史（A B 共通） 教授資料 研究編』 山川出版社